

山口村関連議案

改めて今議会中に越県合併議案の提出を要望

高村京子県議が一般質問で、山口村越県合併に関連して知事に質問した部分です。

最初に山口村の越県合併について質問します。

日本共産党はもともと国による「押しつけ合併」には反対です。山口村でも合併反対の態度でがんばってきました。しかし、村民の意思が示された今は住民自治を尊重する立場です。住民自治の本旨は、そこに住む住民自身が自らの将来を決めるものであり、その住民の意志は尊重されなければならないということです。

「たとえ少数であっても、長野県民でありたいと願う人々を護らなければならぬ。」という知事の思いはわかりますが、村民多数の意思が無視されて良いということにはならず、「県民の意思」という多数の力で、「村民の意思」が否定されてはならないと思います。

知事は「これを認めれば、長野県が溶けてしまう。」と言われますが、そこに住む住民に長野県が選択されなかった事実は、無念であっても認めざるを得ません。栄村、白田町馬坂（まさか）など県境の村の例があげられていますが、それらの村では、様々な困難を乗り越えて、村民の意思で「自立」を選択したのであり、馬坂も住民の意志で全員で決めることを選択したのです。昭和の合併の時には「上から押さえて」悲劇をつくりだしたものです。いま県民は、県境の南牧村、小谷村、富士見町などでも住民の意志で自立を決めています。

もちろん私たち日本共産党は道州制には反対です。「溶けて流れることを認めるのか。」と知事は主張されますが、県民の良識は「溶けて流れていくもの」を認めてはいません。もっと県民を信頼すべきではないでしょうか。知事の見解をお聞かせ下さい。